

水環境マイスター養成講座 六郷扇状地と地下水について

学習しました

今年度4回目となる美郷水環境マイスター養成講座が9月26日、六郷公民館で開かれました。今回の講義は、秋田大学名誉教授の肥田登先生を招き、「六郷扇状地と地下水」をテーマに課外学習を中心に行いました。参加者は21人で、六郷東根の関田頭首工、円筒型分水工、野中の人工涵養池と地下水観測所などを見学し、実際の地形や地図に基づき、昔河川があった場所や地下水の流れの見方や考え方を学習しました。六郷扇状地は豊富な水を湛える田園地帯を形成し、冬季節は雪に覆われるという立地条件が地下水研究に適し、肥田先生が手がけた多くの地下水位等のデータがあることから、

平成21年度 水環境マイスター養成講座全課程修了生 マイスター登録された方たちを ご紹介します

地域の水環境保全活動のリーダーとなる人材を育成するため、美郷水環境マイスター養成講座を7月から4回に分けて開催しました。この間の受講生は27人で、うち全課程を修了した次の10人をマイスター登録簿に登載しました。今後の活動を期待いたします。

水環境マイスター登録者

齊藤 忠治さん(元本堂南部)、佐藤 健良さん(天神堂)、高橋 恒二さん(天神堂)、田口 雋三さん(湯竹)、佐々木哲雄さん(土崎北部)、加藤 勇孝さん(新町)、加藤 好文さん(石神)、出雲 隆夫さん(山本)、矢尾 健さん(本道町)、高橋 司さん(小荒川)

水を学ぼう

第31回読書感想文コンクール

「水に関する本の部」審査結果

例年行われている読書感想文コンクールに「美郷町らしさ」を取り入れたいと、昨年度から「水に関する本の部」を設定しました。今年度も引き続き募集したところ、町内の小学生から15点の応募がありました。審査の結果、名水の郷賞に坂本岬さん(六郷東根小2年)が選ばれました。

応募いただいた作品15点は、11月発行予定の「読書感想文集31集」に収録されます。

名水の郷賞

坂本 岬さん
(六郷東根小2年)



優秀賞

谷屋 直樹さん(六郷東根小2年)
高橋 結杜さん(六郷東根小2年)
藤井 辰磨さん(六郷東根小2年)
竹村 茉姫さん(仙南東小2年)



▲肥田先生(写真中央)の説明を受ける受講生の皆さん

世界でも注目されています。参加者は、距離にして約3キロを歩きながら、世界に誇れる美郷の水環境ロマンを感じたことでしょう。

水辺めぐりウォーキング 貴重な水環境を 満喫しました

満喫しました

第3回目の水辺めぐりウォーキングが10月10日、にかほ市「中島台レクレーションの森」をコースに行われ、町内外から40名の方が参加されました。コースは手つかずの自然が色濃く残る奇形ブナの原生林。獅子ヶ鼻湿原の「鳥海マリモ」など、貴重な植生と水環境が楽しめるコースでした。参加者の皆さんからは「歩きやすく、景色も良かった」という声も聞かれ、ウォーキングを満喫していました。



▲天候にも恵まれ、ウォーキングを楽しむ参加者の皆さん

水を楽しもう

町議会 臨時会

議長に高橋 猛氏、
副議長に深沢 義一氏を選出

改選後初の町議会(第9回町議会臨時会)が、10月5日に開かれ、正・副議長の選出や常任委員会委員の選任など、新たな議会構成が決められました。

本会議では正・副議長の選挙が行われ、議長に高橋猛氏(元本堂南部)、副議長に深沢義一氏(四ツ谷)が選出されました。また、議員選出の監査委員には、吉野久氏の選任が同意されました。各常任委員会等の構成については、「議会だより第21号」をご覧ください。



議長
高橋 猛氏



副議長
深沢 義一氏

新型インフルエンザ対策に係わる 補正予算など2件を可決

10月21日に開かれた第10回町議会臨時会では、平成21年度一般会計補正予算等について審議が行われ、いずれも原案どおり可決されました。

可決された議案

●財産の取得について

●平成21年度一般会計補正予算第7号

新型インフルエンザ予防接種の初回接種費用を助成するための経費(2,362万1千円)など歳入歳出それぞれ5,393万円を追加し、補正後の予算総額を116億8,594万4千円としました。

風



▲永田藤さんと松田町長(10月10日、学友館で行われた町合併5周年記念特別展「永田萌の世界～花の国の妖精たち～」オープニングセレモニーにて)

「奥行き感」

美郷町長 松田 知己

先日、久しぶりに体がぞくぞくする「感動」体験をしました。

都内でひと仕事を終えた夕刻、閉館間際に滑り込んだある博物館。時間を気にしながらの早足の鑑賞でしたが、一枚の絵の前で足が止まりました。6曲1双の屏風絵、「朝陽霊峰」と題した横山大観の絵。重なる山並みと朝日を鳥瞰的に描いた大作でした。

与えられている条件(制約かも知れませんが)、例えば平面で立体感を表現すること、屏風の大きさで広大感を表現すること、屏風の軽々と越えていきました。気が付くと私は、その雄大な風景を鳥になって眺めていました。奥行き感を表現する力量に深く感動しました。

そこで瞬間的に美郷町のことが頭に浮

かびました。与えられている条件、例えば人口や地理、歴史や地域資源などの条件の中で、私たちはいかに奥行き感ある町をつくっていけるのか。大観の絵にその力量を問われているように感じた次第です。

私は、町の奥行き感とは「住み心地」の深さであると考えています。では、その住み心地感はどうすれば出てくるのか。私は2階建ての取り組みから生まれてくると思っています。まずは1階部分で、どこの市町村でも実施する事務事業にきちんと取り組むこと。そして2階部分で、地域条件を踏まえて町独自の施策に取り組むこと。

まずは1階部分について、私は職員とともに全力で取り組んできたつもりです。そして2階部分、例えば全幼稚園・保育園の「認定こども園」化や住民活動拠点「みさぼーと」の設立、独自概念の「地販地消」の推進や地域ブランド米「美郷米」の確立など各分野でがんばってきたつもりですが、充分かと問われると・・・忸怩たる思いもあります。

合併5周年のこの機会。改めて独自の取り組みを計画的に積み重ね、奥行きを創出する努力を誓いたいと思います。みなさんには、引き続きのご協力をお願いいたします。そして現在、その中心となる町総合計画の後期基本計画案、丁寧な練っているところです。

どうも最近、「おでこ」に奥行きが出てきた感じがします。ここの奥行きはいらないんですがね。

移動町長室

町長が毎週火曜日に仙南庁舎、木曜日に千畑庁舎で執務しています。(会議への出席などにより、実施できない場合があります)